

「会員短信 64」

「数えの六十」

永易しのぶ

今年の初詣。御祈祷用紙に書いた歳は数えの六十。主人と知り合い四十三年、結婚生活三十七年。私の人生は、ほぼ主人と三人の息子達でできています。もう本当に本当に、主人と息子達が大好きなんです。

そんな私を「空の巣症候群」が襲ったのは、三男が大学進学した十三年前。自分の価値、生きる役目は何なのか。特に社会における存在意義を自分に問う毎日。自分が自分の価値を認められない。

焦りに焦り、夫婦カウンセラーなど九つの資格を取得。縁あってラジオパーソナリティーや講師活動などを重ねた数年間。ですが、私の「まだまだ何かしなきゃ、存在意義を確立しなきゃ」は続いていたのです。

そんな中、予想もしていないコロナ禍への突入。このタイミングで、自分とゆっくり向き合う時間を持つ事となりました。そして改めて「一番嬉しい、楽しい、達成感のある事はなに？」と自分に問うた答えは…。主人が私の作ったご飯を美味しい！って言ってくれる事。家族の笑顔を見る事。家族に必要とされた時、いつでも出動できる私である事。そう、私の全ては家族の中にあるのです。家族の要である事で、私は家族を通して社会で活かされているんだ。そう思える様になりました。

育てを卒業し、自分の存在意義とは何かと悩み抜いた五十代は、私の人生で一番の成長期だったのかもしれませんが。